

## <講演抄録>3. 歯髄血流の神経性調節機構(第33回東北大学歯学会講演抄録)(一般演題) : 下歯槽神経刺激による歯髄血流の増減を決定する因子について

著者	庄司 憲明, 佐藤 しづ子, 飯久保 正弘, 笹野 高嗣
雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	17
号	2
ページ	186-186
発行年	1998-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/31649">http://hdl.handle.net/10097/31649</a>

### 3. 歯髄血流の神経性調節機構

#### — 下歯槽神経刺激による歯髄血流の増減を決定する因子について —

庄司憲明, 佐藤しづ子, 飯久保正弘, 笹野高嗣 (口腔診断・放射線)

我々は既に, ネコの下歯槽神経を逆伝導性 (末梢方向) に電気刺激すると, 歯髄・歯肉・歯根膜・口腔粘膜などの支配領域の血流が増加または減少することを報告し, 増加反応は感覚神経の逆伝導血管拡張であり, 減少反応は交感神経による血管収縮であることを一連の研究として報告した。この血流反応は, 同じ動物, 同じ刺激であっても増加する場合と減少する場合とがあり, この原因については不明であった。

今回我々は, 基調血流 (basal flow) が下歯槽神経刺激による歯髄血流の増減に関係しているのではないかと仮説をたて, 人為的に基調血流を増減させ, 歯髄の血流反応を検証した結果, 基調血流が高いときには, 減少反応が優位であり, 基調血流が低いときには, 増加反応が優位であることが明らかとなった。

### 4. 本学部における臨床実習の現状

#### — 過去 28 年間の患者数と経過 —

佐藤しづ子, 栗原直之, 犬飼 健, 小野寺大, 飯久保正弘, 駒井伸也, 庄司憲明, 菅原由美子, 古内 寿, 阪本真弥, 高橋和裕, 丸茂町子, 笹野高嗣 (口腔診断・放射線)

本学部における臨床実習は, 建学以来, 「口腔単位」の基本理念に基づいて, 「全人的見地から口腔の状態を総合的に判断できる考える歯科医を育成する」という教育理念のもとに行われている。

建学以来継続しているこの実習システムは, 近年のライフスタイルの変化および高齢化, 開業歯科医院数の増加などの背景から, 最近, さまざまな問題点が指摘されはじめています。

そこで, 今回当講座では, 臨床実習の現状と問題点を明らかにすることを目的として, 学生の担当患者数とその経過について, 建学当初からの推移を調査し比較検討を行った。その結果, 1) 29 年前の建学当初から現在までの学生担当患者数および患者経過 (終了, 次年度継続, Drop, 医員引き上げ) の割合に, 著しい変化は認められず, 臨床実習システムは, コンスタントに継続実施されていた。2) 歯学部病院全体の新来患者において, 紹介状を持参する患者の割合が急増し, 臨床実習協力患者として選定対象となる紹介状を持参し

ない患者が減少している。このことが臨床実習協力患者の確保が困難となっている原因の一つと考えられた。3) 臨床実習協力患者の確保において, 平成 9 年度は, 学生が自分の知り合いをつれてくる割合が 40% であった。4) 各年度終了時における患者の経過 (Drop, 医員引き上げ) の内容に変化がみられた。以上, 指導教官と学生の協力で本臨床実習システムが維持されている現状と臨床実習におけるいくつかの問題点が明らかとなった。

### 5. X 線 CT 再構成画像に関する研究

#### — デンタスキャンによる画像診断 —

古内 寿, 栗原直之, 犬飼 健, 小野寺大, 飯久保正弘, 駒井伸也, 庄司憲明, 菅原由美子, 佐藤しづ子, 阪本真弥, 高橋和裕, 丸茂町子, 笹野高嗣 (口腔診断・放射線)

最近のコンピュータ技術の発展に伴い, 種々の画像処理ソフトウェアが開発されている。X 線 CT においても軸位断の画像をもとに新たな断面の画像への再構成が試みられている。デンタスキャンは, このような再構成プログラムのひとつで, 歯と歯槽骨の診断に適した多断面再構成 (MPR: multiplanar reconstruction) を行うものである。デンタスキャンでは冠状断や矢状断を再構成することができることから, 直接これらを撮影する必要がなくなり, 撮影に伴う患者体位の苦痛や被曝の軽減に有効である。また平面像の再構成だけでなく, 頬骨にそった曲面像の再構成も可能で, 歯科領域での画像診断に有用性が高い。

今回, デンタスキャンにより, 顎骨にそった曲面を展開した panorex 像, および顎骨を頬舌の方向に横断する面を再構成した paraxial 像を作成し, 下顎 implant 症例, 上顎洞内に膨隆した大きな歯根嚢胞症例, odontoma 症例の再構成画像について報告した。この結果, デンタスキャンは顎骨や上顎洞底の形態診断, 下顎管の位置確認, パノラマ X 線写真などの単純撮影では把握できない頬舌的な位置関係などの画像診断に有用と思われた。

### 6. 常温重合レジン板の曲げ強度に与えるガラスファイバーリボンの影響

#### — 大 2 報 —

安藤重生, 今野龍彦, 駒形弘俊, 小林友紀, 西田幸弘, 弓田千春, 笠原 紳, 上斗米博, 木村幸平 (第一補綴)

近年, 常温重合レジン (以下レジン) の強度的欠点